

# しろくま通信



先々週から福岡県福岡市東区箱崎にある『筥崎宮』について書いています。

生まれたらまず、産湯です。ここに応神天皇が産湯を浸かったという井戸もありますが、わざわざ峠を越えて飯塚市の大分（だいぶん）八幡宮で産湯に浸かったと伝えられています。生まれただばかりの赤ちゃんですから、竹で編んだかごに乗せられて峠を越えます。このかごを「ショウケ」と呼びこの峠道が、現在の「ショウケ越え」です。大分八幡宮は、応神天皇、その母親の神功皇后・巫女である玉依姫命が祭られています。ここにも、産湯に浸かったという井戸があります。なぜ産湯のために一山越えなければならなかったのか疑問が残りますが、そう言い伝えられていますので、あえて追求はしません。ただ、「大分」という意味ですが、ここで半島に出兵した軍勢を解散したという説があります。つまり、大分かれ（おおわかれ）と言う意味です。

平安時代の延長元年（923）に、この八幡神が大分宮から博多湾岸の筥崎へ引っ越すことになりました。つまり、大分宮は筥崎宮の元宮ということになります。外交上、内陸の地では不都合だったのでしょう。引っ越した筥崎宮は祈りの場として崇敬を集めるとともに、海外との交流の門戸として重要な役割を果たすことになります。それで、門戸が西北西を向いているのでしょう。



産湯の井戸

前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

